

八王子地区 保護司会だより

第 118 号

令和 5 年 8 月 20 日発行
発行 八王子地区保護司会
編集 広報部
電話 042-657-4928

会長就任の挨拶 前田 善一郎

この度、八王子地区保護司会会长に就任しました。前任の三入会長の後を受け微力ではございますが一所懸命努めますので皆様の御支援よろしくお願ひいたします。

昨年までは、コロナウイルス感染症の影響で保護司会も思うような活動ができませんでしたが、どうやら一段落の様子です。とはいって、まだまだ油断はできません。一度に従前どおりの活動・やり方に戻すのではなく、ウイルスとの付き合い方を考え進めて参ります。

八王子地区保護司会の令和 5 年度重点事項のひとつに「地域社会に貢献する更生保護の実現」があります。八王子市では、国・東京都の再犯防止推進の法律・計画をふまえ八王子市再犯防止推進計画が策定されています。八王子地区保護司会としても地域の犯罪防止の観点から行政と「社会を明るくする運動」などを通して手を携えて計画を進めて参ります。

私は、南多摩郡恩方村（現在の八王子市下恩方町）の生まれです。山間部で林業を生業とし杉檜を育てています。山に入り木の世話をするのが好きです。そして、保護司になって 20 年余りが過ぎ、沢山の対象者に接してきました。すべての対象者が同じ町内か隣接の町に住む保護観察の子どもや仮釈放の方たちで、たくさんの面接を行ってきました。地域で暮らしていると、以前何回も面接した対象者が元気に働いているところや、結婚して子供といふところに出会うことがあります。多くの保護司や地域の人たちが見守ることなどで市民が健全に暮らすことが出来る社会ができると感じています。改めて地域に根付いた活動が大切なのだと思うこの頃です。



恩方川原宿「山の神」にて

社会を明るくする運動

地域活動部 黒沢 栄

7月1日土曜日、「社会を明るくする運動」の3年ぶりとなる「駅頭一斉広報・クリーン活動」が行なわれました。

当日は、八王子地区保護司会を始め、更生保護女性会、協力事業主会、BBS会、保護観察所等、更生保護に携わる18団体が参加いたしました。

始めに、八王子市防犯課の方から活動の説明をいただき、リーフレット・ウェットティッシュの配布を担当する班と、クリーン清掃活動を担当する班に分かれて活動いたしました。

通行人の方からは、「何の活動ですか」と尋ねられることもしばしば。小雨がぱらつくあいにくの天気でしたが、約1時間にわたり、全員がこの運動の社会的意義を周知しようと頑張りました。



京王南大沢駅 みなみ分区と関係者の皆さま

【駅頭一斉広報・クリーン活動実施場所】

八王子駅北口 11団体、八王子駅南口 8団体、京王八王子駅 8団体、京王高尾山口駅 7団体、京王南大沢駅 6団体

【参加団体（順不同）】

八王子地区保護司会、八王子地区更生保護女性会、八王子地区更生保護協力事業主会、八王子BBS会 東京保護観察所立川支部、東京都薬物乱用防止推進八王子地区協議会、八王子市民生委員児童委員協議会、八王子母の会、高尾母の会、八王子防犯協会、高尾防犯協会、南大沢防犯協会、八王子明るい選挙推進協議会、八王子警察署、高尾警察署、南大沢警察署、八王子市防犯課、FC東京



京王高尾山口駅 高尾分区と関係者の皆さま



八王子駅北口 中央分区、東分区、西分区、石森市長を始めとした八王子市の関係者の皆さま、
またFC 東京から元日本代表石川直宏さんも昨年に引き続き参加されました。

東京保護観察所立川支部のみなさま

着任の御挨拶

東京保護観察所立川支部長
どこう ちづる
土公 千鶴



本年4月1日付けで立川支部長として着任いたしました。どうぞよろしくお願ひいたします。

私がこの仕事に就いて、今年で28年が経過しますが、改めて振り返ってみると、今回で14回目の異動になります。勤務先は関東管内のみで、立川支部は初めてです。保護観察所のほか、過去には、愛光女子学園という少年院で勤務したり、法務総合研究所で研修業務に携わったりするなど、いろいろな仕事を経験させていただきました。

出身は東京都板橋区で、現在も板橋区から通勤しています。すでに他界した私の父は、生前、板橋区で保護司をしておりました。自宅の電話で、偉そうに対象者に説教する父の姿を見ては、当時、まだまだ新米の保護観察官であった私が、威圧的な父の態度をこれまた偉そうに指導したこともありました。保護司の皆様が、熱心に更生保護活動に取り組んでおられる姿を見ると、汗だくになって地域を走り回っていた父のことが思い出されます。そんな父を身近に見ていて、保護司の仕事は実に御苦労の多い、地味なお仕事だと感じる一方、地域の未来を支える非常に重要な任務なのだなと思っていました。

立川支部に着任した今、八王子地区を担当する主任官たちと一緒に、八王子地区の更生保護に少しでもお役に立てるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

主任保護観察官
いとう まさこ
伊藤 真紀子

ご縁をいただき、この度、八王子みなみ分区の主任官となりました。私の出身は東京ですので、昔も今もハイキングと言えば「高尾山の稲荷山コ



ース」と即答するくらい、高尾山には常々お世話になっているのですが、八王子の土地勘が全くなく、地図とにらめっここの毎日が続いています。

私は生まれも育ちも、御神輿を愛する川の手下町で、地域の人達に育てられてきました。地域力というものは、一朝一夕に身につくものではありません。八王子一年生の私ですが、地域のプロフェッショナルである皆さんに、一人前の主任官になるよう育てていただけだと嬉しいです。今後ともどうぞよろしくお願いします。

主任保護観察官
ありの ゆうだい
有野 雄大



昨年度に引き続き、高尾分区の主任官をしております。本年度もよろしくお願いいたします。

さて、コロナ禍も新しいフェーズに入り、コロナ禍前の日常を取り戻しつつあります。コロナ禍では控えていた趣味を再開したいとお考えの方も少なくないのではないでしょうか。

私事ですが、夫婦共通の趣味として、「お茶」があります。お茶席で抹茶碗からいただく、あれです。一度、茶道を習いにカルチャースクールに通いましたが、袴紗捌きができずに1日で挫折しました。

ですので、専ら飲むことを楽しんでいます。コロナ禍になり、お茶席がなかなか開かれず、また、その間に子どもが生まれたので、お茶からは離れてしまったのですが、非日常的なささやかな贅沢を味わうために、またお茶席に通いたいと思っています。

保護観察官
はやしだ みよ
林田 実代



「昨年度に引き続き、八王子東及び中央分区を担当いたします林田と申します。私生活では、小4と年長の姉妹の育児に奔走しています。育児の合間には、学生時代バレー部だった

こともあり長女の小学校のママさんバレー部で週1～2回平日夜の練習に参加して発散しています。趣味は、長女と一緒に習っている書道と、姉妹のおうち英語です。

保護観察官として、保護司の先生方の地域に根ざした活躍を間近に見てきて、私も地域貢献したいと思っていたところ、昨年度小学校PTA役員の経験を機に地域の繋がりが増え、今年度地域のボランティアとして活動する機会に恵まれました。何足も草鞋を履いて忙しい毎日ではありますが、子ども達のために頑張ろうと思っています。よろしくお願ひいたします。

取材ノート



たまなはあきら
玉那霸明（東分区）

大久保隆部長、井上太一保護司、玉那霸明・明子保護司夫婦の4人で立川支部へ直撃訪問しました。2階受付にて挨拶すると早速支部長室を案内されました。恐る恐る入ると笑顔で出迎えられ一気に緊張がほぐれました。土公支部長は明るく気さくでおおらかな方でした。直ぐに伊藤真紀子主任保護観察官、有野雄大主任保護観察官、林田実代保護観察官が加わり短い時間でしたが話が弾み談笑しました。

そのなかで、井上保護司より保護司のレベル向上について、および玉那霸明子保護司より発達障害の疑われる対象者の接し方についての話題提供がありました。その後、写真撮影と職場見学をしました。観察官の皆様が明るく生き生きとした雰囲気で、さながら「社会を明るくする運動」の中核がここにありということを確信した訪問でした。西分区担当の林本潤保護観察官は研修中でした。次号でご紹介します。



東京保護観察所立川支部のみなさま

保護司の「H@」活用状況と保護観察官からみた 「H@」運用の課題

加藤 正道（高尾分区）

東京保護観察所立川支部訪問の際に、法務局と保護司の情報交換ツール「H@」の現状と課題について伺いました。

Q1 八王子地区保護司の「H@」利用割合は、どのくらいですか？また、活用状況を教えてください。

A 「H@」にアカウント登録している保護司の方の割合は、かなり高いと言われていますが、実際に利用している保護司の方は2割ほどです。（正確な統計ではなく、感覚として）

「H@」利用している保護司の方の中には、「画像添付機能」を使って、写真を送信される方やメッセージボードを利用して、観察官とやり取りをするなど、積極的に活用される方もいらっしゃいます。

Q2 保護司から「H@」によって送られてくる情報は、観察所で、どのように処理されているのでしょうか？

A 各地区、各分区の保護観察官がプリントアウトします。このときの印刷は、手書きの報告書と同様式の用紙に印字されるため、読み易いです。

但し、保護司の方が段落を変えて入力しても、全文が繋がって印刷されるため、区切りが分かりにくいことがあります。

また、月に2回面接したにもかかわらず「経過情報を追加」の指定をしないで、一枠の中に、分けて書かれる保護司の方がいますが、これも、全文が繋がって1回の面接のように印刷されてしまいます。

Q3 保護観察官からみて、「H@」のシステム上、改善・要望したいことはありますか？

A 保護司の方は、「H@」で送った過去の報告内容を、セキュリティ上、後から見られません。そのため、ご自分で保管していない保護司の方は、プリントアウトしたものを、「コピーしてもらいたい」と頼まれるケースがあります。システム上の改善策を望みたいです。

「H@」は、システム上、運用上も様々な問題点が出てきています。今後は情報を相互に共有するとともに、利用者促進のため、定期的な講習会を開催する必要があると感じました。次号では、「H@」の基本的な操作方法についてご案内したいと思います。

保護司専用ホームページ H@ (はあと) のトップページ。

そのうち報告書作成とメッセージボード機能のページへ進むと右の画面になります。

八王子地区保護司会各分区長より

東分区長

秋山 重男

昭和25年に保護司法ができて早67年。時代も社会情勢も大きく変化しています。そんな中、東分区では現在24名の保護司が在籍しています。地域的には、北東部の保護司が手薄になっているのが現状です。

これから数年後のことを考えると、保護司の在籍数はかなり減ってきます。現在の私達の活動は、ボランティア活動です。また、再任延長はあるものの、基本は75歳定年です。現在、企業等で仕事をしている方は、60歳定年、65歳までは再雇用を基本としています。その中で、新任の保護司を発掘するのが難しくなっています。人の更生・人生の一生を手助けするこの保護司活動は、本当にボランティア活動で良いのか最近考えているところです。

中央分区長

柴田 健彦

この度、中央分区長となりました柴田です。どうぞよろしくお願いいたします。

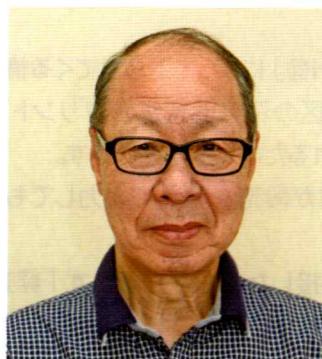
分区内会員増大が喫緊の課題となっております。地域の各種集まりの中で、周知していければ、会員増大へ向けての一歩になるかと思います。

対象者との面接にあっては、そこに至るまでの連絡ツールの激変を感じます。電話番号がなく、LINEでのやりとりが唯一というケースが増えました。句読点を使わず、短文で対応してあげないと忌避されてしまうようです。

おけ（OK）、りょ（了解）と返信されても怯まず！です。スマホLINE勉強会など、分区で企画してみたいと考えています。

また、私は町会の会館で対象者との面接をしています。面接場所の発掘もこれから大事なことです。

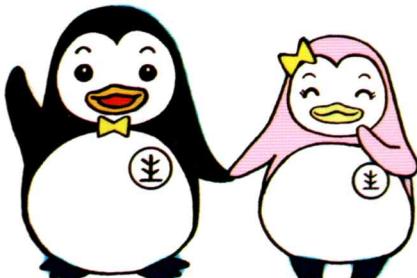
高尾分区長

八木 光司

私が保護司を委嘱されたのが平成20年5月、それから16年経ちます。当初は何も分からぬ中で対象者を受け持ち、諸先輩方に聞きながら報告書を書いていました。

月日が過ぎ今は分区長と言う役職でいます。高尾分区は高尾山のお膝元にある分区です。以前から高尾山薬王院との関わりもあり、佐藤秀仁貫首も保護司をしております。高尾分区は酒席の会が多い分区でした。その会の中で多くの方と知り合いになって行き相談ごとや分からぬことを聞ける仲間が出来てきました。

新型コロナウイルスと言う厄介な病気が出て、3年間の活動ブランクを乗り越え、分区では事務連絡網をLINEで行い、分区会員28名の内24名が利用しています。その新型コロナの自粛期間に新任保護司が4名委嘱されました。これから以前の高尾分区のような活動が出来るよう頑張りたいです。



更生ペンギンのホゴちゃん、サラちゃん
胸のワッペンは「生きるマーク」

西分区長

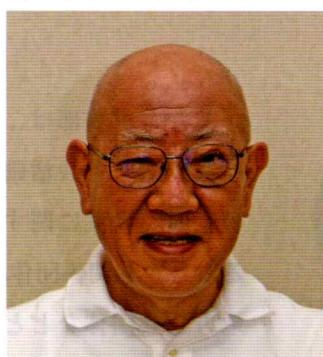
石森 康夫

保護司会の方針、意思決定は各分区9名で構成される理事会でなされます。理事は、各分区での意見を集約し理事会に伝えるとともに、その結論を伝えることが主な役割です。その他に分区活動としては、会員相互の親睦と資質の向上を図ること、研修旅行等々がその目的に含まれています。

さて話題を変えて、地域の自慢話をしたいと思います。令和2年高尾山を中心とする文化財、伝統芸能が日本遺産に設定されました。その構成文化財として私が在籍する西分区では、恩方地区の車人形、小津の獅子舞、川口地区今熊神社の獅子舞、田守神社の獅子舞、山入のささら獅子舞、元八地区四谷の龍頭の舞、加住地区梅坪のささら獅子舞が指定されました。

これはこの地域の郷土愛とそれに育まれた人間愛の深さを物語るもので、罪をおかした人に分け隔てなく対応する保護司の精神は、人間愛そのものといえます。これからも人間愛を大切に、保護司活動を続けていきます。

みなみ分区長

本吉 邦俊

みなみ分区は、大塚地区から片倉・みなみ野地区まで東西に広いエリアが担当です。多摩ニュータウンの開発により里山が色濃く残る地域に新興住宅地として、伝統のある旧市街地と趣の違う街並みが特徴です。この地域の中心は南大沢で、市の行政もこの地区に集中しています。

以前は、新興住宅地に見られる「鍵っ子」が多く、家族間のコミュニケーションが希薄な面から青少年の対象者が多く、私も環境調整を含め11名を担当する時期がありましたが、今ではその頃の少年達も良き父親・母親になり、落ち着いた地域になっております。

みなみ分区は、当初より先輩、後輩の壁がなく、管外研修では夜遅くまで事例研究の討議や先輩達からの温かい助言を頂き活動を続けております。この良き伝統を引き継いで、コロナ禍で思うように出来なかった活動を再開したいものです。

研修旅行～金原明善記念館を訪ねる

分区での研修旅行は、新たな知識を得るとともに親睦と交流を深める絶好の機会です。コロナ禍の3年間は、実施が難しい期間でしたが、今後は積極的な活動が望れます。

写真は2016年に、みなみ分区で行った浜松への研修旅行。日本初の更正保護施設「静岡県出獄人保護会社」（明治21年）を設立した社会事業家金原明善翁（1832年～1923年）の記念館を訪問した時のものです。

翁を中心に慈善篤志家が集まり、監獄教誨と免囚保護を目的とした施設の設立とその精神は全国に広がり、昭和14年の司法保護事業法によって、国の制度として明確に位置付けられ、わが国の刑事政策の一翼を担う現在の更正保護制度へつながって行きました。また、設立された会社は現在も「更正保護法人 静岡県 観善会」として受け継がれています。



各部・委員会の活動

総務部長

尾寄 敏夫

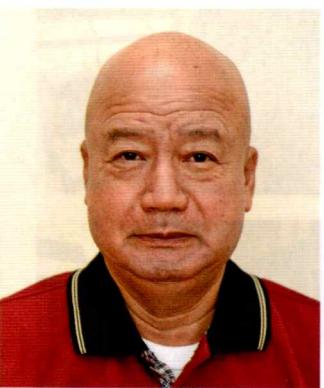
私たち総務部は、総勢18名で本会活動の企画・立案することから関係団体、地方公共団体などの渉外に関するここまで様々な活動を行っています。

特に、本地区の最重要事業である「定期総会」の開催にあたっては、会場の確保をはじめ、案内状の作成・送付、議案の作成、当日の会場準備など、多くの労力を費やしています。

令和6年度においては、東保連主催の顕彰式典の担当地区となる予定であり、東京保護観察所や東保連とも協力しながら他地区に恥じない式典となるよう慎重に準備を進めていきます。

八王子地区保護司会の皆さんには、当日の運営をはじめ、多くのご協力をお願いすることになると思いますが、ご理解のほどよろしくお願ひいたします。

研修部長

中川 常彦

研修部委員長を務めます中川常彦と申します。今回で2期目となります。年三回行われる定例研修・SST研修・多摩地区全体研修などを担当します。コロナ

の影響で実施できていない管外研修は今のところ未定です。研修といつてもその準備・実施・報告

という作業を行わせていただく訳ですが、保護司の出身は警察・教員・PTA・民生委員等・市役所・福祉施設・その他千差万別で、その皆様全てに満足いただける研修を行うことは至難の業と考えます。『お前ボヤキが多いな』と言われそうですが、保護司の義務である研修を皆様に納得いただけるものとするため会長副会長、研修部委員の皆さんと一丸となって頑張りますので宜しくお願い申し上げます。

地域活動部長

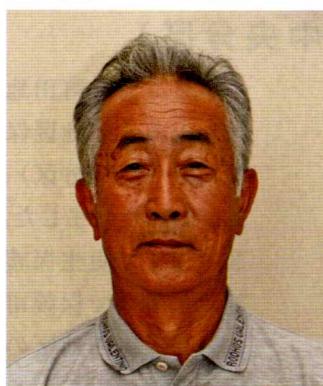
黒沢 栄

今年度地域活動部の部長に就任しました高尾分区の黒沢と申します。よろしくお願いいたします。私たちの活動は、以下の5つになります。

1. 社会を明るくする運動に関すること。
2. 地域における犯罪予防活動の実施と推進に関すること。
3. ミニ集会等地域活動の実施と推進に関すること。
4. 社会参加活動の実施と推進に関すること。
5. 社会貢献活動に関する実施と推進に関すること。

しかし、ここ数年は残念ながらコロナの影響で活動の縮小を余儀なくされたり、中止に追い込まれたものもありました。今年こそは例年通り活動できれば良いなと思います。久しぶりの活動で戸惑わないように過去の内容を確認し、部会の皆さんや先代部長の助けを借りながらしっかり進めていきます。

協力組織部長

河井 孝之

私は、協力組織部長として二期目となります。一期目はコロナウイルスの影響で部活動は何もしないで過ぎてしまいました。今期は、事業主会、更生保護女性会、BBS会などと協力して、何が出来るかじっくり考えて参ります。

私の仕事は農業ですが、野菜にもウイルス病があります。野菜のウイルス病は罹ってしまうと殆ど治ることは無く生育が止まってしまいます。また、治療薬はありません。野菜のウイルス病にも、コロナウイルスと同じように色々な型があります。

たとえば、ジャガイモの場合、北海道以外の暖かいところで作ったジャガイモはウイルス病にかかりています。このジャガイモを翌年に種芋として植え付けると発病して収穫できず、農家にとって、かなり厄介な病気となっているのです。

5類に移行したコロナウイルスですが、決して油断せず、積極的な活動を行ないます。

学校担当委員会委員長

き ゆみ

後藤 貴弓

平成14年7月「学校サポート委員会」として発足し、平成15年「学校担当委員会」となり現在に至っています。小学生、中学生の犯罪率は低いですが、犯罪を予防するという観点では、幼少期に多くの方々から愛情を注がれることが大切です。

現代社会の中では、家庭内や学校の中に居場所が無く、「生きづらさ」を感じている子どもも少なくありません。また、ネットの普及により、大人だけでなく子どもたちの周りにも沢山の情報が溢れ返り、何を信じればいいのかもわからなくなっています。

辛い状況から逃れようと、道を外れてしまう子どもが一人でも少なくなるよう、学校と地域と家庭と関係機関が協力し多くの愛情で子どもたちを育てていけば、将来的に犯罪も少なくなると信じ活動していきます。

広報部長

大久保 隆

広報部の大きな仕事は「保護司会だより」を発行することです。ここ数年は、コロナウイルスの影響で思うように動けず、年に1回、2回しか発行できませんでしたが、本年度は3回発行を目指して参ります。

広報誌で1番大切なことは皆さんに読んでいただくことです。「保護司会だより」が読者の目に止まり、記事を読んでいただくにはどうしたら良いか？それは記事に人間味を出すことだと思います。たとえば、人物紹介では挨拶文だけでなく、その人の経験談や、大きめの本人写真を使うことによって人間性が出て読み易くなります。

私達広報部員はみんなで話し合い、趣向を凝らし、保護司の役に立つ経験談、活動報告、特集記事などを発信して行きます。これからも読者の皆さんに、積極的に広報誌に参加していただき、保護司の皆さんのが楽しみにお待ちいただけるような「保護司会だより」を作ります。

新任保護司紹介

一関 秀行 (みなみ分区)



八王子市在住で、妻と高校生、中学生の息子と、小学生の娘、息子の6人家族です。

特別支援教室の教員として、支援が必要な子への教育に携わっています。日々、子供と向き合いながら子供のもっている力や可能性を最大限引き出せるように関わっています。子供が良い方向に変わっていく姿が見られたときはやりがいを感じます。

更生保護という、人を更生していく、見守るという役割が、仕事にも子育てにも活かせると思い、保護司に挑戦することにしました。

平日は仕事、休みの日は少年野球のコーチ、長男、次男の野球の応援と多忙ですが、両立して取り組んでいきます。

趣味は、体を動かすこと、アウトドアでの遊びです。

大久保 正明 (西分区)



小学生のときに、行ったことのない隣町に自転車を走らせ、世界が広がりました。中学で、多摩湖へ、八高線で高崎へ、一人旅。高校では、国鉄の周遊券で、北海道、東北へと。大学

では、しばらくヨーロッパを巡りました。高校で地理を教えながら、地球の東西南北へ。シベリアの東から西へ、アフリカの地下800メートルのダイヤモンド鉱山へ、古代の遺産、大きな大地の様相、そこでの素敵人々との思い出・・・

この旅、ふるさと八王子で、わくわく、ドキドキしながら、あたらしい人との出会いを楽しみにしています。何卒、よろしくお願い申し上げます。

片桐 修一 (中央分区)



本年5月、町田地区から八王子地区保護司会（中央分区）に移動いたしました。3月末まで更生保護施設鶴舞会で保護司として、町田地区の保護司会活動にも参加させていただきました。私の保護司さんとの関りは、前職の矯正職員として分類保護課（現在では調査・支援）で勤務して以来で、熱心な保護司さんとの出会いが数多くありました。そのような私が今は保護司として対象者と関わっていくことについて不思議な思いです。

今後も皆様からのご指導ご助言を賜りながら、対象者の社会復帰のため全力で寄り添えるサポートの一となるべく精進します。よろしくお願いします。

島村 徹仙 (みなみ分区)

2022年12月にみなみ分区配属となりました。出身地は埼玉県の坂戸市ですが、十数年前から八王子に住みはじめ、その頃からこの住みやすい八王子が大好きです。家族構成は妻と2人の子供の4人家族。仕事は建設コンサルタント会社でシステム整備や運用に従事しています。ここ数年、在宅ワークが中心となった影響で少し時間の自由が利くようになったので、その時間を活用して地域に貢献すべく保護司となりました。

私たちの暮らしを取り巻く環境は日々変化しておりますが、社会に少しでも良い作用を及ぼせるように活動していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。



情報交換ツールLINEを活用してみませんか

荒木 美奈（高尾分区）

最近、保護司の方々から若い対象者と連絡が取りづらいという声がちらほら聞こえます。そこで、若い世代から保護司世代まで、利用が多いLINEをコミュニケーションツールとして活用してみるのはいかがでしょうか。

現在、スマホ保有率は13～59歳が90%以上、20～49歳では100%以上で、1人1台以上保有していることがうかがえます。60代も約8割の人が保有しています。さらに、年代別のSNS利用率を見てみると、LINEが10～70代まで全ての年代で幅広く利用されており、70代でも72.7%でした。（2023年一般向けモバイル動向調査より）

今の10代、20代は電話・メール離れをしており、気軽に連絡する手段としてはLINEが比較的多いようです。相手がメッセージを読んだかどうか確認できることもLINEの利点です。

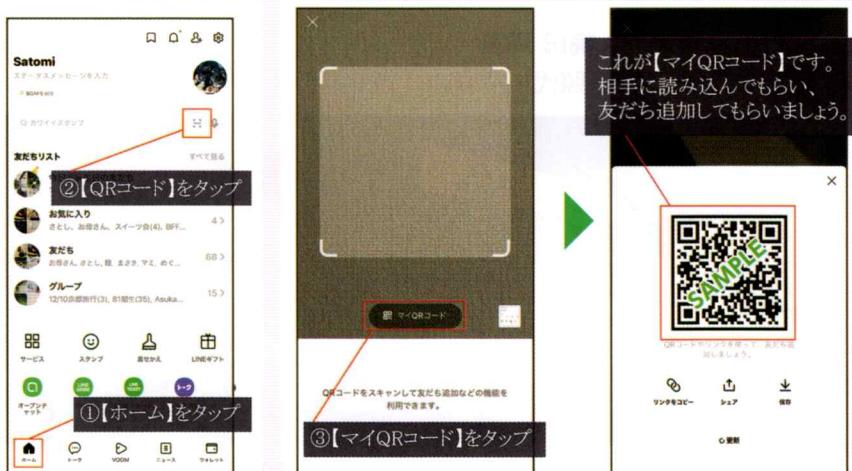
ただし、情報が外部に流出する可能性もありますので、第三者に見られても問題ないよう、個人情報の取り扱いには十分に留意する必要があります！それを踏まえた上で、情報交換の一助として、対象者とLINEの『お友達』になり、コミュニケーションをとつてみてはいかがでしょうか。

まずは、友達追加のやり方から、始めてみましょう！

QRコードで友だち追加する

- [ホーム] > [QRコード] をタップ。
- [QRコードリーダー]を開いたら、[マイQRコード]をタップ。

自分のQRコードが表示されますので、友だちに[QRコードリーダー]で読み込んでもらいましょう。



あああめの本のコーナー

『冬の旅』 立原正秋著

高尾分区・進藤 紅一



事実を告げぬまま、送致される主人公。多摩少年院に向かう護送車の中でのやりとりからストーリーが始まります。そして仮退院。しかし、義理の兄への復讐から、二度目の少年院へ。複雑な家庭環境、非行少年達の交流をとおして、世渡り下手な生真面目に生きる主人公が描かれています。スマホもない時代で、なんとも理不尽。

昭和43年5月から1年間、読売新聞夕刊に掲載された新聞小説です。私は50年ほど前に通学電車の中で読んだのですが、京王高尾線山田駅と京王片倉駅の間にある多摩少年院の際を通過する度、この作品が脳裏に蘇ります。

新潮文庫 1973年

※本のコーナーでは会員の皆様からのご投稿をお待ちしております。

令和5年度八王子地区保護司会定期総会報告

令和5年4月25日、八王子市生涯学習センターにおいて「令和5年度八王子地区保護司会定期総会」を開催しました。

来賓に石森八王子市長、安間教育長、土公東京保護観察所立川支部長、野崎東保連副会長、小山多摩連会長、ほか多くの関係者の皆様方のご臨席を賜りました。

会長挨拶、来賓祝辞の後、議長団に関口眞吾氏（西分区）、橋山力也氏（みなみ分区）が選出され議事が進行し、「令和4年度事業報告/収支決算報告/会務・会計監査報告」、「理事・役員の選任」「顧問・相談役の推挙」「令和5年度事業計画案/収支予算」が承認され総会は滞りなく終了しました。

今後1年間、承認されました事業計画に基づき、更生保護活動を一層強化していくことを確認しました。新役員は以下の通りです。（敬称略）

会長：前田 善一郎

副会長：塚本 秀雄、青木 隆夫、佐藤 順一、本田 良久

監事：高取 良昌、伊勢崎 文子

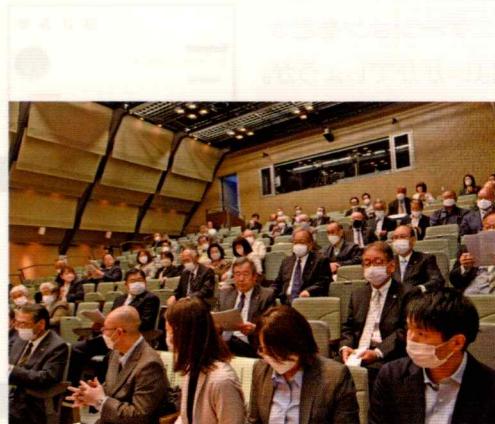
顧問：石森 孝志、佐藤 秀仁、大竹 通夫、内田 實、三入 重夫

相談役：加藤 克明、山中 廣司、小山 幸夫

（総務部）

会計：佐藤 ますみ、楠田 周良

書記：眞保 修、新野 照代



八王子市生涯学習センター（クリエイトホール）で行われた総会

薬物乱用防止啓発活動について

八王子地区薬物乱用防止推進サポーター 石川 泰（中央分区）

今年度の八王子市の「市民健康の日」5月21日にエスフォルタ・アリーナ八王子で「健康フェスタ・食育フェスタ」が開催されました。東京都薬物乱用防止推進八王子地区協議会では、毎年フェスタに参加し、薬物乱用防止のパンフレットや見本薬物を展示し、来場者の関心を集めています。

昨年度、市内中学校から多くのポスター・標語の応募があり、その中からポスター部門では、八王子地区協議会長賞「薬物に飼われるな」（南多摩中等教育学校3年 長橋 佑真さん）、標語部門では同じく会長賞「やりません強い意志と断る勇気」（加住中学校3年 大西 空果さん）などの作品を展示しました。薬物乱用防止のマスコットキャラクター、胸に『NO』のロゴマークの付いた「ダメ。くま」君も子供たちの人気者になっていました。



編集後記

年度が変わり、保護司会では大幅な人事異動がありました。今回はその方々をクローズアップしました。また、近くで遠い保護観察所立川支部。そこに突撃取材してきました。意外にもそこは親しみやすい所でした。

（大久保 隆）